

和衷協同

令和5年度 朝礼 (10/2) 校長の話

おはようございます。

定期考査も終わり、これからは10月19日に開かれる合唱コンクールに向けて頑張る時期になります。すでに音楽の授業などで合唱を始めていることと思いますが、これからはますますそれに磨きをかけるため、クラスで一丸となって取り組む日が続くことでしょう。

今年の合唱コンクールのテーマは『響 一届け！この歌を 君に一』となったと聞きました。そこで、今日は「響く」ということについて考えたいと思います。

ここにこんな器具を用意しました。これは「音叉」というもので、叩くと気持ちのよい音が出ます。叩いてみましょう。少し音色に集中してみてください(叩く。そのあと、手で押さえて音を消す)。さて、ここにもう一つ、同じ音叉を持ってきました。横に並べてみますね。では、同じように片方を叩いてみます。もう片方はいっさい触れません。どうなるか、予想してみてください。では、叩きます(叩いたあと、叩いた方の音叉を手で押さえて音を消す。すると、叩かなかった音叉から音が出ているのがわかる)。わかりましたか？ もう一度やってみますね。

そうですね、つまり、いっさい触っていないのに、もう一方の音叉も音を発することがわかりました。これが「響く」という現象です。見えない空間を伝わって音が伝わり、受け手にも同じ響きが生まれるということです。

心と心も、同じメカニズムになっているのではないのでしょうか。心の高まりが相手に伝わり、そこに感動が生まれます。つまり、私たちが感動するのは、相手の響きを自分の心の中で感じとっているからだと思います。

さて、今日の四字熟語は「和衷協同」という言葉です(言葉を貼って示す)。

「和衷」とは心の底から一つになること、「共同」はともに力を合わせることです。合唱は、クラス全員が一体となって、感動の波を、聞いている人に送ることです。心の高まり、心の響きをそろえないと聞く人を感動させられません。この「和衷協同」が素晴らしい合唱を生み出す秘訣といえるでしょう。

音叉の実験で見たように、力強いクラスの歌声は、必ず聞いている人の心を響かせます。何度も練習して、よい音を響かせてみてください。

さて、音叉を使ってもう一つ実験をしてみましょう。音叉の部分を下の箱から取り外してみます。さあ、この状態で叩くとどうなるのでしょうか。やってみます、耳を澄ませてくださいね(叩く)。もう一度(叩く)。わかりましたね、ほとんど音が出ません。では、元の状態に戻してみましょう。叩きます(叩

くと大きな音が響く)。つまり、音叉は叩けばいつでも音が出るわけではないのです。実は、共鳴箱というこの空間が必要なのです。これを心にたとえてみると、閉じた心では、どんな響きも人に伝わりません。心を開いて、しかもたっぷりとした空間ができるくらい大きく開いて、初めて自分の中の響きが相手に伝わり、人を感動させることができます。

今日は音叉を使って、感動のメカニズムについて考えてみました。これからクラス全員、「和衷協同」の気持ちをもって、聞いている人の心にある音叉を響かせるつもりで、合唱に取り組んでください。

以上でお話を終わります。